



二十年ぶりに再会した母が
誘惑してくる

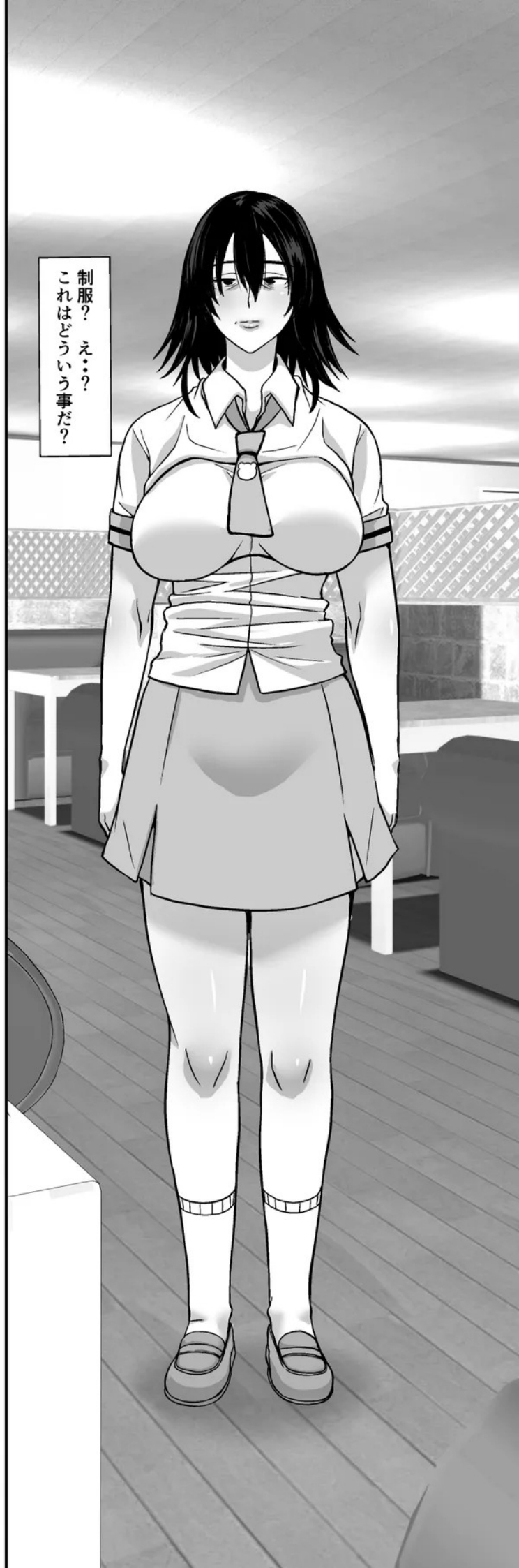


オレは今日
オレを捨てた母親に
会う約束をしてたはず…



いや年齢が
わかりづらい見た目で
制服着てるけど

よく見れば
口元と目のシワから
四十代前半ぐらいか



制服？ え…？
これはどういう事だ？







今のお母さんも
愛情を注いでくれたし
経済的にも不自由なく
育ってこれた

確かにはじめは
寂しく思う日も
あったけど



その為なのか
実の母親を恨む気持ちは
一切なかった
この人の選択はベスト
だったように思える

あの・おれ
全然恨んでないです



ですが
あなたがわたしを
恨んでいるのですら

本当に
ごめんなさい



だったら・



ほんとに？

はい

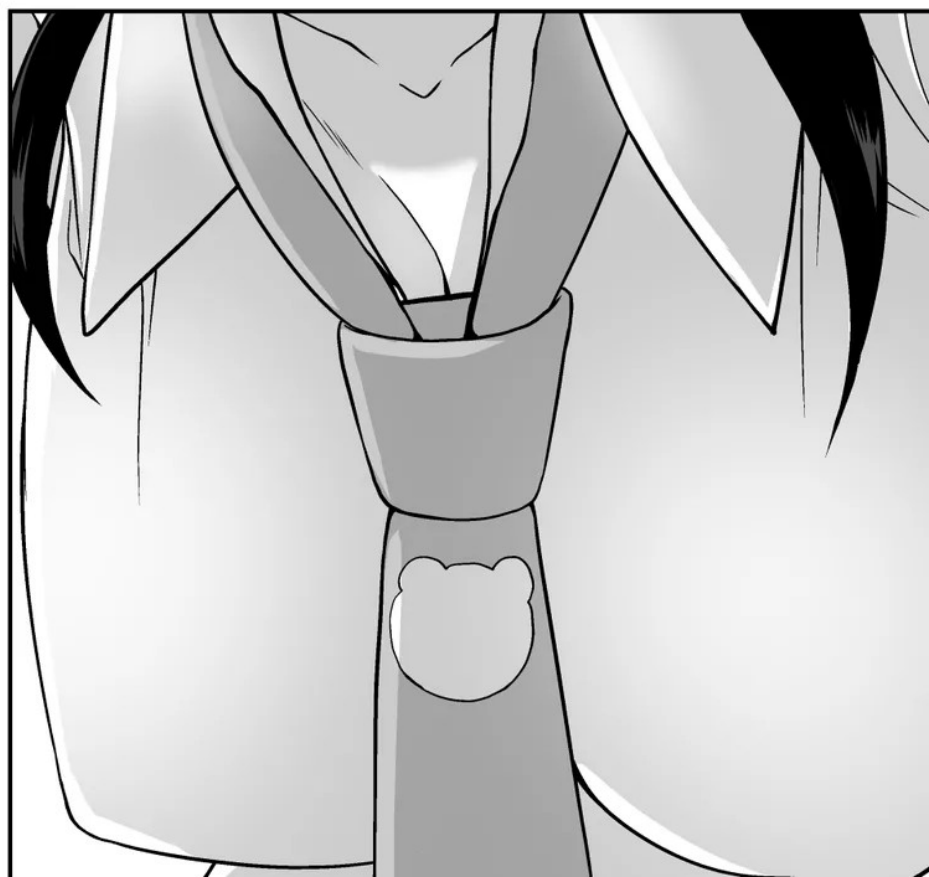
ちっとも？

はい

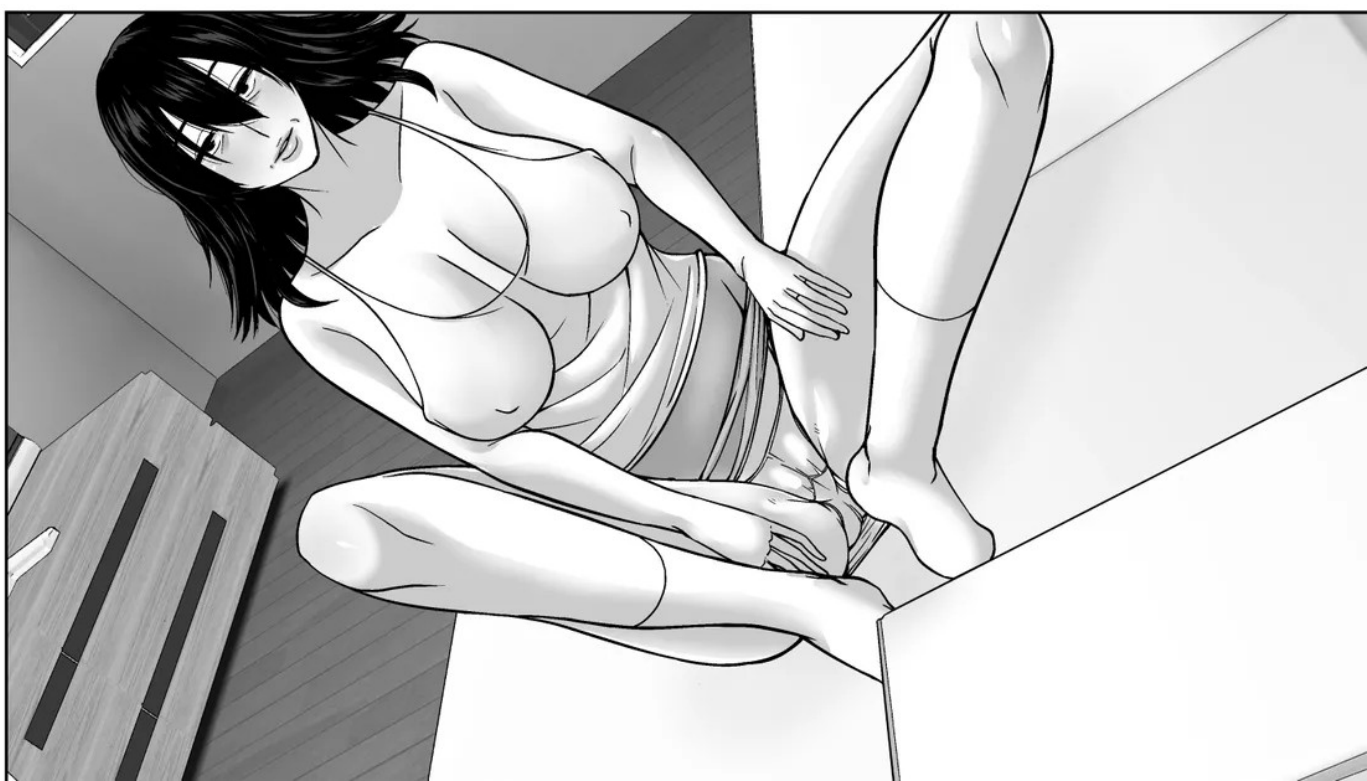
針千本のめます？

はい

ガタッ









どうして誘いに応じて
来てくれたんですか？



こっちに

え？

たもつさん
こっちに来てください



はい…



私の体見て
ましたよね？

くいっ…

喫茶店で待ち合わせ
した時も今も

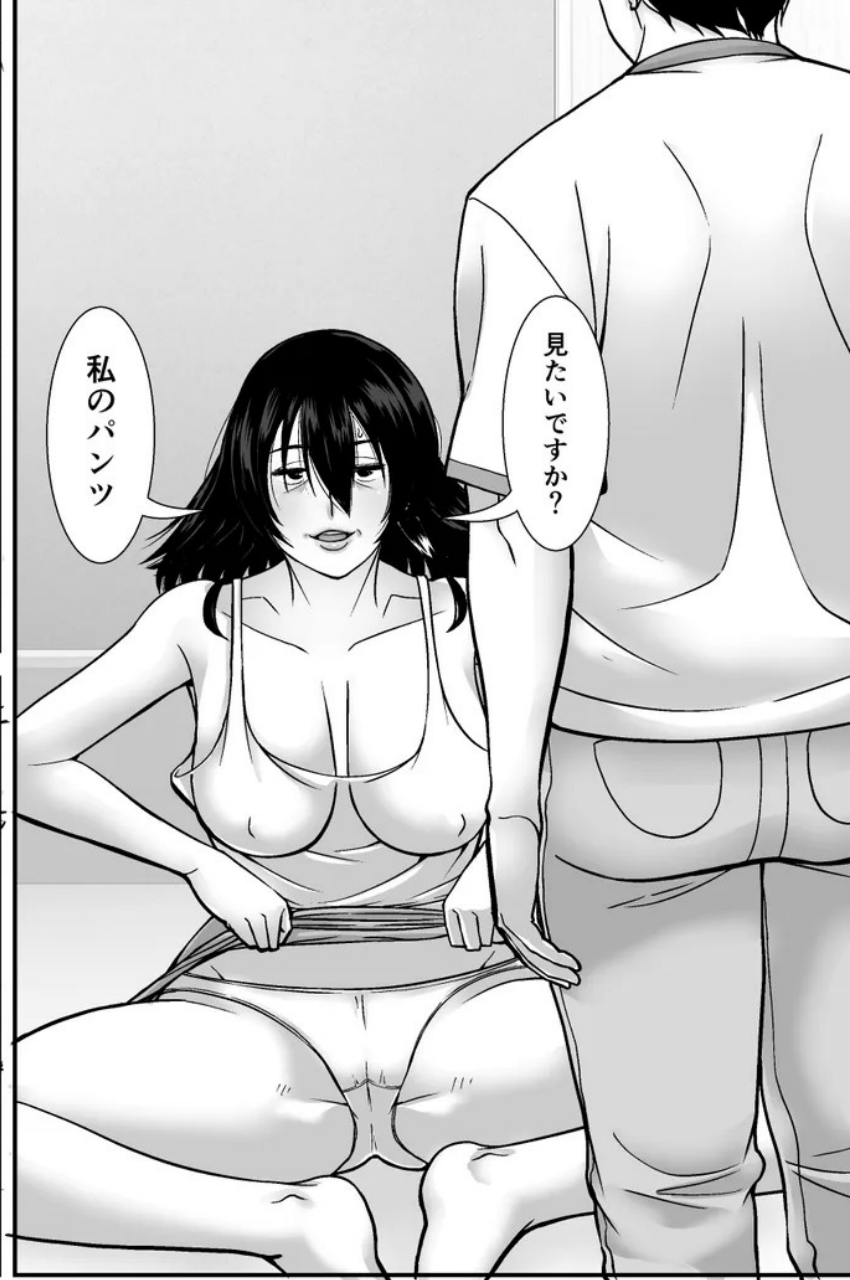


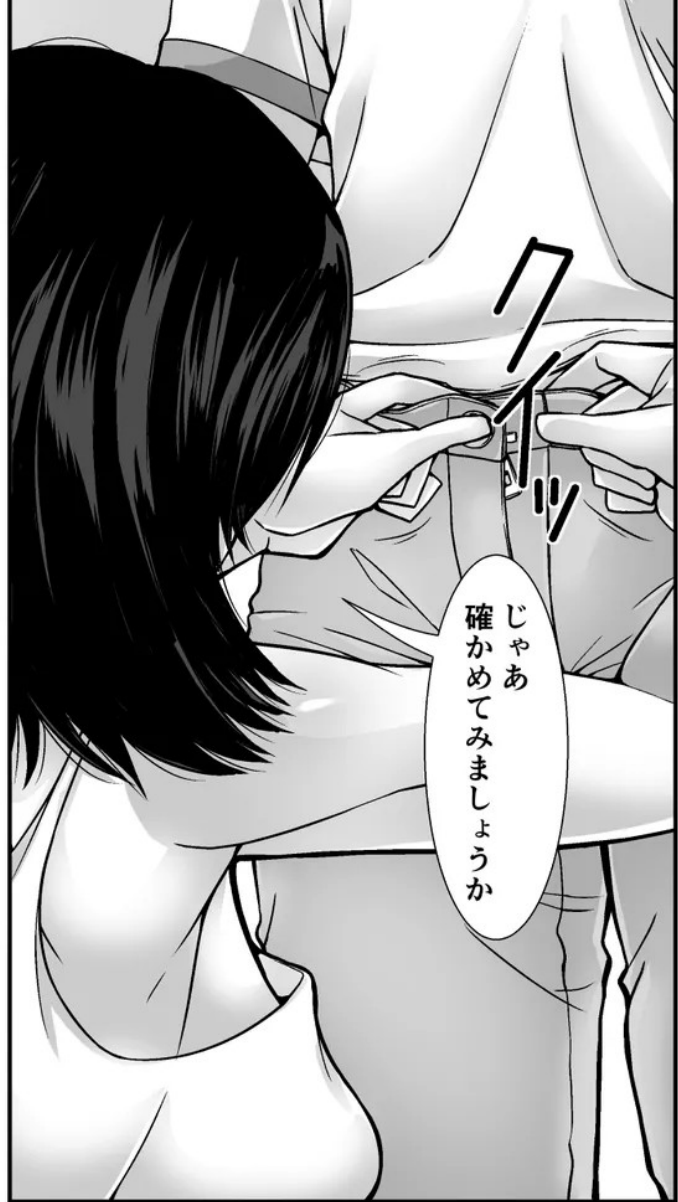
どっ…

どうしてって…

急に連絡してきた
母親の私との生活は

どんな事を
妄想しましたか？







おちんちんをこんなに
させちゃったんですか？

どうして



でも ある日
私は妄想してしまった

成人したあなたが
私を母と思えずに
欲情して求めてくる
妄想を



たもつさん
私は二十年間毎日

あなたを迎えにいつて
一緒に暮らす日を
想像して待ってたんです



そんな事言ってもさ
母さんも気持ちいい

はじめは
後ろめたさも
感じたけど



それからはもう
そのパターンしか
考えられず

はあ

はあ

カリ

カリ

カリ

はあ

はあ

仕事の漫画でも
妄想した母子ものばかり
描く毎日



あっ

あんっ

罪悪感とはつくに
乗り越えました



何千回と妄想して

はあ

はあ

カリ

カリ

カリ

はあ

はあ



妄想しては

ぐに

ぐに

ぐに

ぐに

ぐに

毎日オナニーをしての
繰り返し





私はいつでも
待ってますよ

たもつさんが
私に襲い掛かって
きてくれるのを



はあ：
はあ：

う うそだろ：
なんでこんな事に

う 産みの親に
チンポ舐められて
誘惑されるなんて



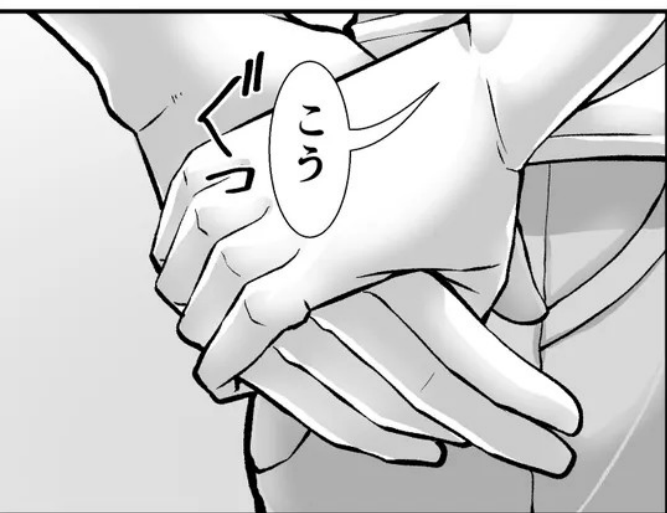
でもそれは妄想で
血の繋がった肉親だぞ：

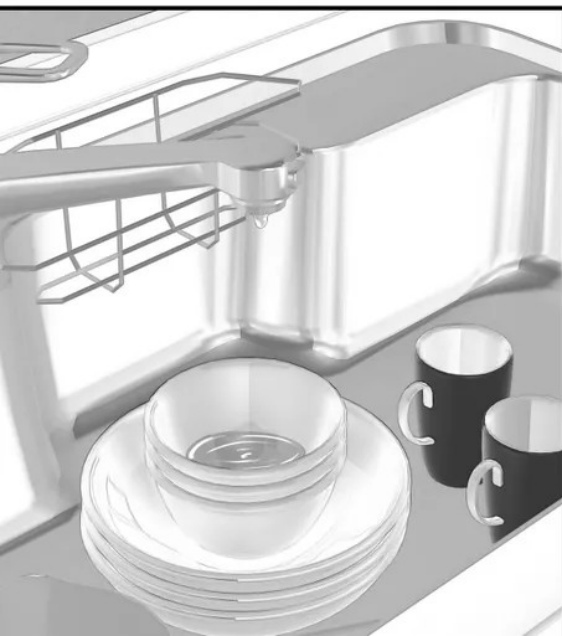


確かに目の前に現れた時は
全然母親に見えなかったし
実感もなかった

色っぽい体が入ったし
一緒に住んだ時のエロい
妄想も正直した：















おオレ…!!

どうしました?
私におちんちん
入れるつもりですか?



私はとっくに
準備できてますから

遠慮なく
おちんちん
入れてください

くはあ…



いいんですか?
そう思えなくても
私は母親ですよ



入れたいです…!!





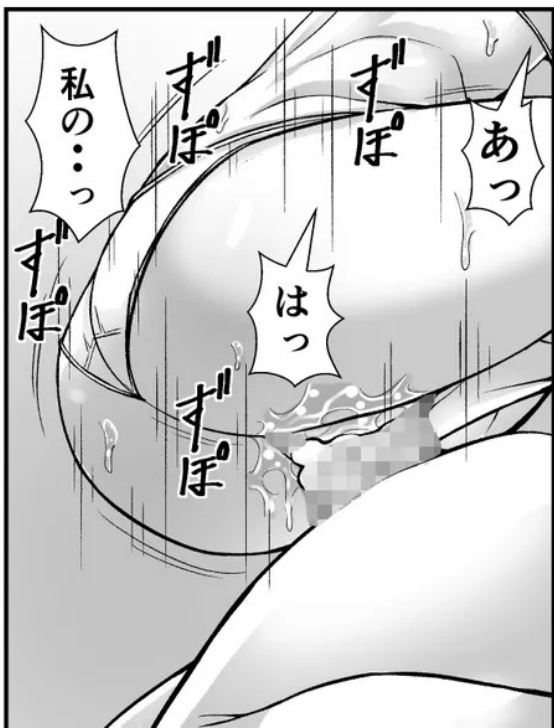
う動いて：
構わず動いてください
どうぞずっと
イキっぱなしになるから



何年も妄想した
おちんちん！

ほんとに入ってる
たもつさんの
息子のおちんちん







たもつさんが
欲情した時は

あっ

ずぼ

ずぼ

ずぼ



この穴に
中出ししちゃって
ください

いつでも
何度でも

ずぼ

ずぼ

ずぼ

ずぼ



産みの母親のおまんこは
たもつさん専用
おまんこですから

私のおまんこは...

ずぼ

ずぼ

ずぼ

ずぼ

ずぼ

ずぼ



ああっ おっぱい
おっぱいも触って

はい!



ごめんなさい
卑猥な事を言う母で
幻滅しましたか?

でも何度も何度も
妄想の中で
言ってきたんです

あっ

い言えて
うれしいし
か感じちゃう!

ずぼ

ずぼ

ずぼ

ずぼ



おほおお〜っ！



ありがとう
たもつさん…

これからお母さんと…
毎日 何回もセックス
しましょうね